

TOK ワークブック「知の理論をひもとく- Unpacking TOK」作成

森岡 明美、田原 誠 (岡山大学)

キャロル・犬飼 (筑波大学) 山口 えりか (上智大学短期大学部)

本発表は、TOK ワークブック「知の理論をひもとく- Unpacking TOK」作成についての執筆者4名による実践報告である。知の理論 (TOK) は、国際バカロレア・ディプロマプログラム (IBDP) の基盤であり、IB 教育を理解するためには、TOK をひも解き、十分に理解することが欠かせない。

国際バカロレア (IB) プログラムは高校までの教育であるが、その教育理論と実践には大学教育が学ばべき要素がふんだんにある。中でも、検証的思考力、多角的な視点、多様性を認める心を育成する TOK は、従来の日本の教育に決定的に欠如している学びの要素である。大学教育に TOK を取り入れることは、現在重要課題である教育改革に大きく貢献すると考えられる。

しかしながら、IB 教育どころか検証的に考える訓練を受けてきていない学生にとっては、大学で TOK を取り入れた授業が提供されても非常にとっつきにくいであろう。近年数多くの TOK 解説書が出版され、文部科学省のウェブページには TOK の授業案等の参考資料も掲載されているが、課題に取り組む実例は十分とは言えない。本ワークブックは、TOK についての解説書ではなく、実際に日常の社会問題などの状況を TOK 流に、多角的・検証的に考えるためにはどうすればよいのかの例を提供している。

執筆者は、IB 教育に力を入れている岡山大学と筑波大学の教員3名と、IBDP 修了生である。岡山大学と筑波大学はこれまでに IB ジョイント・シンポジウムを開催する等、IB の協働研究と実践を続けて来たが、この TOK ワークブックもそれぞれの大学の学生のために活用することを念頭に置いて協働で作成することになった。IBDP を修了した執筆者は、TOK を学習する時にどんなワークブックがあれば参考となったかなど、体験者ならではの観点を盛り込んでいる。

本ワークブック作成にあたり、著者4名はまず TOK に関する書籍や資料を読み、分析と協議を重ねた。「実生活の状況 (Real Life Situation)」から最終的に「知識に関する問い (Knowledge Question)」を作り出すまでのプロセスに関しては、それぞれの書籍や資料に様々な手順が紹介されているが、4名の著者は、IB を体験したことのない (以下 non-IB) 学習者にとって理解しやすいと思われるプロセスを考え、提案している。また一般的な学習者にはわかりづらいと思われる IB 独自の用語は、適宜変更した。

ワークブックでは、8つの「知識の領域 (Areas of Knowledge)」のそれぞれに相当するテキスト (新聞記事やジャーナル・アールティクル等) を1つずつ取り上げ、実生活の状況 (Real Life Situation)」を提示する。そのテキストから「知識に関する主張 (Knowledge Claim)」を指摘し、「知識の領域 (Areas of Knowledge)」を見定め、最終的に「知識に関する問い (Knowledge Question)」を導き出す。その後、この一連の「実生活の状況」から「知識に関する問い」までのプロセスを説明するスクリプトにまとめている。このスクリプトは、(ビジュアル・エイドのない) 口頭プレゼンテーションの台本のようなものである。

このワークブックは、IB の TOK に準拠したものではあるが、IBDP 受験対策本ではない。non-IB 学習者が、TOK 流に、多角的・検証的に考える手助けをするためのワークブックである。このワークブックに示された8つの例を読むことにより、読者が自分自身の「実生活の状況」について『知識』として提示された事柄をなぜ知っているかわかるのか How do you know what you know?』と問いかけ、思考するようになることが究極の目的である。主に大学生を対象としたワークブックだが、一般書としても読める。また日本語と英語のバイリンガルで書かれているのもこのワークブックの特徴である。

本発表では、4名の執筆者が、TOK ワークブックを作成するに至った経緯、現在までの進捗状況、これからのタイムラインと課題などについて報告する。